

基本施策2 確かな学力の育成

施策の柱4 基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、学びに向かう力を育む

取組9 身に付けた知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成 担当課 学校人事課、義務教育課、高校教育課

○小・中学校 全国学力・学習状況調査等、客観的な調査を活用し、各学校における学力向上のPDCAサイクルの確立を推進します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査は実施されなかったが、問題冊子等については全ての児童生徒に配布されたため、各学校の創意工夫による全国学力・学習状況調査問題の有効活用を促した。 ・児童生徒を対象にした全国学力・学習状況調査の問題の解説動画とその動画を有効活用するためのリーフレットを作成・周知した。 ・令和元年度から令和2年度までに実施された「総合的に学力向上を図る学校への支援事業」では、県内5校の実践校において、全国学力・学習状況調査の結果等により明確になった課題について、教育課程の改善・充実（授業改善）を中心に、指導体制の工夫・改善、教師の指導力の向上などの視点から総合的に学力向上を目指す取組とその成果をWebに掲載した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・解説動画の総再生回数は2,221回であり、全国学力・学習状況調査を活用について促したことで、児童生徒の学びの充実に役立てることができた。 ・実践校における取組と成果をまとめた資料を周知したことにより、各学校の課題を解決するための実践に役立てられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査を活用した学力向上のPDCAサイクルの確立を推進している学校の取組を広く発信していく必要がある。

○発達段階に応じた少人数学級編成を推進するとともに、各学校の実態や課題に応じた学力向上計画に基づく指導体制を充実します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらプランによる加配を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○小学校低学年30人以下学級編成に189人 ○小学校中学年35人以下学級編成に91人 ・わかばプランによる加配を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○中学校第一学年35人以下学級編成に88人 ・学力向上特配を配置した。 <ul style="list-style-type: none"> ○小学校 287人 ○中学校 220人
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の学力向上計画に基づき、学習指導上の課題を解決するための手立てが明確であり、配置効果が見込める学校を中心に学力向上特配を配置することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の全学年を35人以下学級とする「ニューノーマル GUNMA CLASS PJ」による新たな少人数学級編成を最大限に生かし、一人一台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進していく。

○「はばたく群馬の指導プランⅡ」、「はばたく群馬の指導プラン」及び「はばたく群馬の指導プランー実践の手引きー」を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組みます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」を参考にした実践事例サイトに約500以上の事例を掲載した。 ・小中学校の新規採用者345名に「はばたく群馬の指導プランⅡ」を配布し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の充実が図れるようにした。 ・「群馬ならではの新しい時代の学び」の推進に向け、「はばたく群馬の指導プランⅡ」に1人1台端末の活用を位置付けた指導資料「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」を作成し、Webページに掲載した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについて、県内に広く普及し、学校現場の授業改善の促進を進めることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した日々の授業作りや各学校における研修で活用できるようにするため、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」の周知・活用を図る必要がある。 ・ICT活用促進プロジェクトのモデル校等の取組を通して、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」を、より実践的な内容へと加除・修正をする必要がある。

(高等学校) ○各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに、観察・実験、レポートの作成、論述等、知識・技能の活用を図る学習活動を充実します。	
令和2年度の取組実績	・新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、基礎的・基本的な事項に重点を置くなど指導計画を見直した上で、レポートの作成等の知識・技能を活用する学習活動を実践するよう指導した。
成果	・通知等により、基礎的・基本的な知識・技能を精選し、確実に育成できるよう、指導方法の改善について周知できた。
課題	・既習した知識・技能を確実に定着できるようにするためには、計画的にそれらを活用する場面をつくる必要がある。

○主体的に学習に取り組む態度を養う上で、生徒の発達段階を考慮した、思考力、判断力、表現力等を育成する学習活動を充実します。	
令和2年度の取組実績	・群馬県ステップアップサポート事業により、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善や、校内研修の充実を推進した。
成果	・教員の授業改善への意識から、授業において思考力、判断力、表現力等を育成する学習活動は取り入れられている。
課題	・思考力・判断力・表現力等を育成するため協働的、双方向型の授業改善を引き続き推進する必要がある。

○全ての県立高校において、生徒一人一人の学習状況や授業の理解度を把握するなど、個に応じたきめ細かな指導や、生徒一人一人の学習状況等を適切に把握して、指導の改善に生かすための観点別学習状況の評価を推進します。	
令和2年度の取組実績	・群馬県高校生Gアッププロジェクト等の実施により、評価の事例を共有した。
成果	・思考力・表現力・判断力等の育成する上での評価の方法について研究を進め、その実践例について周知することができた。
課題	・観点別学習状況の評価等を工夫・改善するためには、各校に対して校内研修を推進するなどの取組が必要である。

○キャリア教育を念頭においた教育課程を編成し、生徒が学習意欲を高め、主体的に進路選択ができる態度を育成します。	
令和2年度の取組実績	・公立高等学校キャリア教育・進路指導研究協議会を10月に実施し、各校の取組内容、課題等について情報共有を行った。合計68名が参加した。 ・講師を招き、キャリア教育に関する講演や進路相談を行う、キャリアアドバイザー活用事業を12校で実施した。
成果	・他校の取組やキャリア教育・進路指導実施上の諸課題について情報交換を行うことで、各校のキャリア・進路指導の充実を図ることができた。 ・キャリアアドバイザー活用事業等を通して、各校のキャリア教育を推進することができた。
課題	・社会が大きく変化する中、育成すべき資質・能力を明確にしたキャリア教育を推進する必要がある。 ・令和4年度入学生から実施される新教育課程について更に周知・徹底を図る必要がある。

基本施策2 確かな学力の育成

施策の柱4 基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、学びに向かう力を育む

取組10	しっかりとした学習習慣・生活習慣の確立	担当課	学校人事課、義務教育課、生涯学習課
○発達の段階に応じた少人数学級編制及び少人数指導や教科担当制による授業により、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を行います。			
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ さくらプランによる加配を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○小学校低学年30人以下学級編制に189人 ○小学校中学年35人以下学級編制に 91人 ・ わかばプランによる加配を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○中学校第一学年35人以下学級編制に88人 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導面 <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒のつまずきに対し早期に対応した。 ○個に応じた学習指導が充実した。 ○児童生徒の発言回数や機会が増えることにより、学習意欲が向上した。 ・ 生活指導面 <ul style="list-style-type: none"> ○教師による多面的な児童生徒理解や、児童生徒の基本的な生活習慣の定着が図られた。 ○一人一人の児童生徒の学級内における存在感が実感された。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の全学年を35人以下学級とする「ニューノーマル GUNMA CLASS PJ」による新たな少人数学級編制を最大限に生かし、一人一台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進していくこと。 ・ 「小学校教科担任制特配」「学校間連携特配」などの特配を、より効果的に活用できるよう引き続き検討していくこと。 		

○道徳科をはじめとする各教科等の学習活動を充実するとともに、学校段階等間の連携や、家庭・地域との連携を通して、学習習慣や生活習慣を確立します。			
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はばたく群馬の指導プランⅡ」を配布し、研修会や協議会等で周知を図った。 ・ 「群馬ならではの新しい時代の学び」の推進に向け、指導モデル「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」を作成し、義務教育課HPに掲載した。 ・ コロナ禍の休校時における子どもたちの学びの保障をするために、オンラインサポート授業動画を作成し、tsulunosより配信するとともに、群馬テレビにおいても放映した。（第1弾191本、第2弾70本） ・ 臨時休業を踏まえ、子供たちの学力を保障するために、限られた時数の中で指導内容に軽重をつけて授業を実施できるように、令和2年度小中学校における「年間指導計画を見直す際の参考資料」を作成・周知したり、進級・進学に向けての準備ができるよう、子供たちに向けて、春休みの家庭学習充実のリーフレット「春休みの学びを応援します」を配布したりした。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はばたく群馬の指導プランⅡ」の周知により、小・中学校間で共通した学習過程の実践が推進されるとともに、子供の問いを生かした児童生徒主体の授業が見られている。 ・ 「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」を作成・周知したことにより、ICTを活用することで、学校と家庭の学び、地域とのつながりを効果的に行えることに着目してもらうことができた。 ・ オンラインサポート授業動画を1度は見たという児童生徒が50%視聴したことから、休校中においても家庭における学習習慣の確立に役立てることができた。 ・ 県内の小中学校では、臨時休業による授業の大きな遅れは見られなかった。 ・ 「春休みの学びを応援します」を配布し、子供たちに家庭学習の方法の例を示せたことから、学習習慣の確立に役立てることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用して、家庭と連携した学びの充実を図る必要がある。 ・ 家庭、地域社会の人々が参加、協力した授業や活動の事例等を紹介して連携の充実を図る。 		

○学校図書館の利用を促進し、家庭・地域との連携を深めながら、日常生活の中で児童生徒の読書習慣が身に付くようにします。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員等を対象とした学校図書館研修会を実施し、指定校の実践発表や学校図書館の運営・活用について情報交換した。 ・学校司書を対象とした学校図書館活用講座を動画配信により実施し、学校図書館の運営等について情報交換・交流を行った。 ・「学校図書館充実事業」実践校において、ICT環境の充実を含めた学校図書館の整備や、公立図書館との連携して授業に活動する図書の貸し出し等についての取り組みが進められた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校図書館充実事業」の実践校では、司書教諭や学校図書館司書を中心に、公立図書館とのスムーズな連携が推進された。 ・教員や学校司書の各種研修、講座を通じて、学校図書館の役割の理解と活用を促進し、人材育成を図ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における読書習慣を身に付けるためには、地域と連携した取組を推進する必要がある。 ・学校図書館において、ICTを活用した情報センターとしての充実を図っていく必要がある。

施策の柱4における指標の状況、令和3年度の方向

指標の状況

指標		策定時		目標値	2021.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合や数値に大幅な上下があった場合等、説明を記入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
毎朝、同じくらいの時刻に起きている小・中学生の割合	小6	92.7%	2017	100.0%	92.3%	2019	-5.5%	2020年度調査未実施
	中3	93.1%	2017	100.0%	93.5%	2019	5.8%	2020年度調査未実施
公立高校における中途退学率	全日制	0.7%	2017	0.5%	0.9%	2019	-100.0%	2020年度調査結果は2021.10月頃公表予定のため、2019年度調査結果を最新値とした。
	定時制	11.0%	2017	9.0%	11.6%	2019	-30.0%	2020年度調査結果は2021.10月頃公表予定のため、2019年度調査結果を最新値とした。
家庭等での学習時間が1日当たり平均1時間以上の小・中学生の割合	小6	66.3%	2017	75.0%	68.4%	2019	24.1%	2020年度調査未実施
	中3	72.7%	2017	80.0%	72.1%	2019	-8.2%	2020年度調査未実施
主体的・対話的で深い学びの視点に立った(はばたく群馬の指導プランに基づく)授業改善を実施している小・中学校数	小	292校	2018	305校	295校	2020	23.1%	新型コロナウイルスの影響により対話的な活動が十分に設定できなかった。
	中	149校	2018	162校	152校	2020	23.1%	新型コロナウイルスの影響により対話的な活動が十分に設定できなかった。
主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を実施している県立高校数	高校	47校	2017	62校	62校	2019	100.0%	

令和3年度の方向

<ul style="list-style-type: none"> ・全ての小中学校において、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善が実施できるよう一層の周知を行うとともに、ICTを効果的に活用した授業についても、ICT活用促進プロジェクトのモデル校における実践を共有し、授業の質の向上についてもあわせて取り組んでいく。 ・コロナ禍においては、「対話的な学び」が難しい部分もあるが、ICTの効果的な活用を含めた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、「指導と評価の一体化」の考え方に立った学習評価の改善に向けた取組を総合的に推進するとともに、それらの取組を進めるための組織的な校内研修を実施することで、教員の専門性の向上を図ることを目的とする新規事業「新しい学びのための授業改善事業」を実施する。 ・中途退学の未然防止に向け、入学希望者に学校の特色を理解させる取組の一層の充実を図るとともに、引き続き、中高の接続に配慮した適応指導の工夫及びキャリア教育の観点を踏まえた生徒指導を一層推進する。また、「新しい学びのための授業改善事業」に基づく授業改善や、SNSに頼らない人間関係づくりに係る生徒主体の活動等を通して、生徒の自己有用感や人間関係形成能力等を高めるとともに、特別活動を含む様々な活動の中で、生徒一人一人の居場所づくりに努める。 ・学校図書館の活用を促進するため、学校図書館関係者を対象とした実務研修を開催し人材育成を図るとともに、各学校図書館への図書の団体貸出等により読書環境を充実させる。また、地域に身近な公立図書館及び公民館図書室と連携した取組により、図書館を身近に感じさせることで、児童生徒の読書習慣の定着を図る。

基本施策2 確かな学力の育成

施策の柱5 探究的・発展的な学習により社会へ参画する力を育成する

取組11 | ものづくり産業等へつなげる理数教育の推進 | 担当課 | 義務教育課、高校教育課、総合教育センター

○科学に対する興味関心を高めるとともに、未知の分野に挑戦する探究心や創造性に優れた人材を育成します。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第8回科学の甲子園ジュニア群馬県大会は中止となったが、全国の中学1、2年生を対象に、理科・数学・情報をオンライン上で競い合う、令和2年度科学の甲子園ジュニアエキシビジョン大会への参加を呼びかけ、群馬県より9校、20チーム、計99名の生徒が参加した。 ・令和2年度科学の甲子園群馬県大会を開催した。（出場校14校107名参加） ・県内4校が文部科学省のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、各指定校において、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数教育に重点を置いた研究開発を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・理数教育に興味関心を高め、難しい課題に対して協働しながら解決できる人材の育成につながった。 ・科学の甲子園は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、筆記競技のみの開催としたが、科学に対する興味・関心を高めることができた。 ・SSHの指定を受けた県内4校が科学的な探究活動や評価方法等の研究を推進した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、県指導主事会議や教員を対象とした研修会、中学校理科研究会等で、本事業の目的や研修、大会について周知を図り、参加チーム数の拡大を図る必要がある。また、事前研修を計画するなど工夫を行い、協働で課題に取り組み、競い合う楽しさを感じられるようにしたい。 ・SSHの各指定校において研究開発した探究活動の指導方法や評価方法について、他の高校等への普及を更に図る必要がある。

○日常生活との関連を重視する授業を推進し、観察・実験等、本物に触れる科学的な体験を一層充実させ、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する機会を増やします。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・理科室での観察や実験については、新型コロナウイルス感染症の影響で困難な活動も多かったため、できるだけ体験活動が可能な観察や実験を例示した「令和2年度年間指導計画を見直す際の参考資料」を作成・周知した。 ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」にある日常生活との関連を重視した授業づくりについて周知した。 ・令和2年度科学の甲子園群馬県大会を開催し、理科・数学などの複数分野において実生活・実社会と関連した課題を扱うなど、科学好きの裾野を広げる活動を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ渦の中でも、多くの学校で観察や実験等、本物に触れる科学的な体験を重視した授業の実践に役立てられた。 ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく公開授業などで、「ふれる・つかむ」過程と、「まとめる」過程に日常生活との関連を位置付けた単元構想について共通理解を図ることができた。 ・令和2年度は県内14校107名が参加した。科学的な知識・技能を活用し、チーム内で話し合いながら実験を行うなど、科学の楽しさを知り有用性を実感する取組となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響の中でも、本物に触れる科学的な体験を一層充実できるよう、よい取組を紹介し、周知していく必要がある。 ・日常生活や自然にあてはめることのできる本質を学べる科学的な体験を一層充実できるよう、今後も理科室で観察や実験をする授業が行えるよう周知していく必要がある。 ・参加者が安心・安全に実験を実施できる会場の確保と実験器具の整備が必要である。

○科学的に探究する力の育成のため、児童生徒が見通しをもって観察・実験、探究活動等を行う問題解決的な学習を推進します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」や新学習要領における評価に基づいた授業づくりについて周知するとともに、「令和2年度年間指導計画を見直す際の参考資料」において、観察や実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりする活動を重視する案を示した。 ・群馬県高校生ステップアップサポート事業の推進研究員である理科教員3名が、「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点に基づいた観察・実験、探究活動等の探究的な学習に係る授業公開を行った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上等の指定校において「はばたく群馬の指導プランⅡ」を基にした問題解決的な学習の実践授業を行い、その成果をwebページや資料配布等で情報共有することで、各学校で問題解決的な学習の授業づくりに役立てられた。 ・各市町村教育委員会から、小学校第3学年～中学校第3学年まで事例を収集することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が見通しをもって観察・実験を行えるようにするためには、自分の予想や仮説を基に観察や実験の計画を立てる活動を重視した学習を推進する必要がある。 ・探究的な学習に係る公開授業への参加を促し、一層の普及を図る必要がある。

○発達段階に応じた基礎的・基本的な知識・技能や科学の基本的な見方の確実な定着を図るため、小・中・高等学校を通じた理科の学習内容の系統性（連携）を重視したカリキュラムを編成します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県理科研究発表会の開催を検討したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。昭和28年以来、小・中・高等学校が合同で開催している。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高等学校総合文化祭 自然科学部門の代表作品を決定するための代替発表会を開催した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校の学びをつなぐ視点等について、各学校種の教員の共通認識を図る必要がある。

○数学的な見方や考え方を働かせ、数学的な知識・技能を積極的に活用する態度を養います。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県小学校中学校教育研究会算数・数学部会研究大会等で、「はばたく群馬の指導プランⅡ」や新学習要領における評価に基づいた授業づくりについて周知するとともに、「令和2年度年間指導計画を見直す際の参考資料」において、限られた時間の中でも知識や技能を活用して数学的な活動を行う場面を示し、問題解決的な学習を推進した。 ・数学的な見方・考え方を働かせながら概念や性質を発見し、まとめられるよう工夫した動画を、小学校、中学校計79本作成した。 ・群馬県高校生数学コンテスト(代替事業)を実施し、県内各高校に問題を配付すると共に、解説動画をオンライン上で公開した。 ・群馬県高校生数学キャンプの開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」の趣旨を周知し、単元の「であう過程」と「つかう過程」を連動させた思考力や表現力を高める授業の在り方について共通理解を図ることができた。 ・休業期間中においても、問題解決の場面で活用できる知識・技能の定着を継続的に図ることができた。 ・数学コンテストを通じて、県内公私立の高校生等が、論理的思考力や想像力を問う数学の問題に取り組むことで、生徒に数学的な見方や考え方のよさを認識させ、新しい価値を見いだすための想像力を培う機会とすることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的活用により、児童生徒が数学的な見方・考え方を一層働かせ、意識化できる授業を推進する必要がある。 ・数学コンテストに、さらに多くの生徒が参加できるよう、実施・運営の方法等を検討していく必要がある。 ・数学キャンプについて、実施の効果を全県に普及できるよう、数学科教員が参加できるようにするなど、会場や実施内容、実施方法の工夫が必要である。

○理数教育に係る教員の資質向上のための研修を充実させます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の教員に対しては、初任者研修（中：12名）、2年目研修（小：16名）、4年目研修（小・中：教科別研修は中止）、中堅教諭研修（小・中：中止）において、児童生徒が主体的に問題解決を行うための単元構想や授業づくり等についての講義・演習・実習・協議、模擬授業など、経験年数に応じた研修を実施した。 ・高校の教員に対しては、初任者研修（7名）、2年目研修（中止）、3年目研修（8名）、6年目研修（8名）、中堅教諭研修（中止）において、生徒が主体的に探究する授業づくり等についての講義・演習・実習・協議、模擬授業や授業参観・研究会など、経験年数に応じた研修を実施した。 ・理科研修講座（小学校コース、中学校コース、高等学校コース、先端科学コース）、理科実習教員研修講座については、観察、実験を行う上での課題の解決法や理科の専門性を高めるための内容について、講義・実習・協議などの研修を予定していたが中止となった。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・総合教育センターの施設・設備を活用した各種研修講座を、県内学校の講師と連携したり、オンラインで実施したりすることにより、受講者の実践的指導力を高めた。 ・協議会には県内85名の理科教員が参加し、探究的な学習を進める際の工夫や課題等について共有することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者のニーズや最新の理数教育に関する動向に合った研修講座とするために、ICTの活用を含め、研修講座の内容と形態を精選して運営し、受講者の声も参考にして改善を図っていく。 ・探究的な学習が県内高校等に普及するよう一層促進する必要がある。

基本施策2 確かな学力の育成

施策の柱5 探究的・発展的な学習により社会へ参画する力を育成する

取組12	プログラミング教育の充実、情報活用能力の育成
担当課	義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、総合教育センター

○小・中・高等学校の12年間を見通して、児童生徒の系統的な情報活用能力を育成（プログラミング教育を含む）します。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の発達段階に応じ必要な端末活用スキルの育成に関わる資料と、端末導入初年度における指導の方針に関わる資料を作成し、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」の第Ⅲ章に掲載した。 小学校プログラミング教育研修講座を実施した。 高等学校教育研究会情報部会授業研究会において、プログラミングと動画編集のオンライン研修をそれぞれ1回ずつ開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 各学校において、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」の第Ⅲ章を活用し、情報活用能力の育成を位置付けた教育活動を展開する準備が進められた。 「事前学習（動画視聴）→講座受講」という流れで、集合研修時の実習時間をより多く設けることができ、小学校プログラミングの授業づくりについて、実践的な研修を実施することができた。 情報部会のオンライン研修ではのべ48人が参加した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 端末活用スキルの育成に向けてスキル系統表の活用を啓発するとともに、令和2年度に作成した資料の見直しを図る必要がある。 情報の収集や分析など、思考や表現に関わる能力についても検討を進める必要がある。 算数科や理科の内容を取り扱ったが、総合的な学習の時間におけるプログラミング教育を含めて扱う必要がある。 高等学校では令和4年度から新科目「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」が開設されるため、情報担当教諭のさらなる指導力向上を図る必要がある。

○SNS等を介したいじめや問題行動、犯罪被害等の状況を踏まえ、保護者や関係団体等と連携し、情報社会の進展とともに変化するネット上の諸問題を教員が正しく理解した上で、児童生徒の情報モラルを育成します。

令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県警と連携した情報モラル講習会を高校6校（生徒571人、教職員67人参加）及び県立特別支援学校7校（児童生徒264人、教職員128人、保護者22人参加）で実施した。 「SNSに頼らない人間関係づくり」に係る生徒主体の活動を推進し、新型コロナウイルス感染症に係るいじめや、SNS等を介した問題行動、犯罪被害等の未然防止を図った。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル講習会により、メールやインターネット上の交流サイト等を介したトラブルや、出会い系サイト等へのアクセス等の未然防止を図ることができた。「SNSに頼らない人間関係づくり」に係る活動により、SNS等を介した差別や偏見の問題について話し合うなど、互いに支え合う人間関係づくりを推進することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため情報モラル講習会等の行事の多くが中止となったが、今後は実施方法を工夫しながら、児童生徒の情報モラルを育成を推進する取組を一層積極的に行う必要がある。

○学校では、一斉学習に加え、個別学習、協働学習のためICTを有効活用します。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の小・中学校にモデル校（拠点校2校、実践推進校11校）を設け、公開授業や実践発表を行い、1人1台端末を活用した授業を推進した。 ・ICTの有効活用に向けた理論的な背景や各教科等の指導における活用のポイントを示した指導資料「はばたく群馬の指導プランⅡICT活用Version」を作成・周知した。 ・特別支援学校では、タブレットのほか、児童生徒一人一人の障害の状態に応じた入出力支援装置等を導入し、個別最適な学びの充実に取り組んだ。 ・ICTを有効活用するための研修支援を実施した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル校における取組や指導資料「はばたく群馬の指導プランⅡICT活用Version」を通じて、各学校で、令和3年度からの本格活用に向けて準備を進めることができた。 ・障害種や児童生徒一人一人の障害の状態に応じた入出力支援装置等のICT機器を活用した授業実践を通じ、児童生徒の主体的な学びや可能性の広がりが見られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「はばたく群馬の指導プランⅡICT活用Version」の資料について、見直し・充実を図るとともに、モデル校事業を通じて実践事例を収集・周知する必要がある。 ・特別支援学校においては、児童生徒の主体的な意思表出や社会参加を促すため、入出力支援装置を含む一人一人の障害の状態に応じたICT機器の効果的な活用についてさらなる研究を進め、全特別支援学校に周知し、実践を推進する必要がある。
○教員の情報活用能力及びICTを活用した指導力向上のため、研修を充実させます。	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用指導力向上研修講座を実施した。 ・特別支援学校において、ICTを活用した教員の指導力向上を図るため、モデル校を6校指定し、実践研究に取り組んだ。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「事前学習（動画視聴）→講座受講」という流れで、集合研修時の実習時間をより多く設けることができ、県推奨ソフト（Google for Education）の具体的な操作や活用方法について、実践的な研修を実施することができた。 ・障害種に応じた専門家を招へいた研修を開催し、ICTを活用した授業モデルづくりに取り組むことができた。また、研修会をオンラインで公開することで、すべての特別支援学校がモデル校の研究成果を共有することにつながった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの活用等により、多くの教職員が受講可能な研修を実施する必要がある。 ・市町村等で中核となる教職員への研修を実施する必要がある。 ・専門家を招へいた研修のさらなる充実を図り、すべての教員がICTを活用した授業を実施できるようにする。

基本施策2 確かな学力の育成

施策の柱5 探究的・発展的な学習により社会へ参画する力を育成する

取組13 地域を発展させる大学の充実 担当課 (知)県立女子大学、(知)県立健康科学大学

(県立女子大学)

○幅広い教養と各分野の専門知識を修得し、その過程で培われる論理的かつ柔軟な思考力、豊かな人間性、そして主体的な問題解決能力を兼ね備えた人材を育成します。

令和2年度の取組実績	<p>コロナ禍で様々な取組が中止される中でも、次のとおり実績を上げることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学部、国際コミュニケーション学部ともに、全体のレベルアップを目指した少人数教育を実施した。 ・人文科学や社会科学から美術まで、さまざまな学問分野の授業を開講したほか、実務家を招いた多彩な講義や、フィールドワーク等の授業も開講した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数だからこそ可能な双方向でのやり取りや、議論を交えた授業により、学生に学ぶ楽しさや意欲をもたらすことができた。 ・さまざまな学問分野や、教室の外でも学びをおこなえる環境により、学生が幅広い視野を身につけることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次から専門教育への導入となる基礎知識と能力を養うため、授業内容を適宜見直す必要がある。 ・学生の希望にマッチした実務家を招くことが課題である。

(県立女子大学)

○地域社会や国際社会に広く関心を持って地域や異文化への理解を深めるとともに、高い語学力とコミュニケーション能力、そして協調性や発信力を身に付け、持続的に社会に貢献できる人材を育成します。

令和2年度の取組実績	<p>コロナ禍で様々な取組が中止される中でも、次のとおり実績を上げることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外留学支援プログラムを5名の学生が利用した。 ・6名の外国語教育研究所研究員が年間66コマをネイティブ教員として担当した。 ・TOEIC SW及びLRについて国際コミュニケーション学部1～3年生の全員(210名)が受験した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン留学等、新しい形での留学支援を通して英語力の向上や異文化交流を体験する機会を提供できた。 ・日々の研究や高大接続の実践指導を重ねたネイティブの研究員による授業により、より高度な英語能力を身につける機会を提供できた。 ・TOEICの結果を勘案し、修得状況に合わせた適切な指導を学生へ提供することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学を切望する学生への海外危険情報の共有方法や、質の良いオンライン留学先の開拓が必要である。 ・ディスカッションやグループワークの制約が多く、リアルなコミュニケーションのやりとりに工夫が必要である。 ・学年が上がることによるスコアも上昇させなければならないことから、学修内容の検討をおこない、全体的なスコアアップを図る。

<p>(県立女子大学)</p> <p>○県立大学として求められる役割を果たすため、地域の課題解決に資する取組の強化、諸機関との多様な連携や共同研究等の推進、地域文化の振興に寄与する教育研究活動や県民の学修意欲に応える講座の充実等に積極的かつ組織的に取り組めます。</p>	
令和2年度の取組実績	<p>コロナ禍で様々な取組が中止される中でも、次のとおり実績を上げることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会講師や出前講座などの地域等との連携事業について、54件実施した。 ・群馬学センターでは、リサーチフェロー公開研究会（講演会）を開催した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の地域貢献活動により、諸機関との多様な連携、地域文化の振興などに寄与することができた。 ・群馬学センター、リサーチフェロー公開研究会（講演会）には、リサーチフェロー選任者8名、一般参加者（オンライン参加）延べ31名の参加があり、地域学の発展、地域の課題解決に寄与できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・県立大学としての地域貢献を図るため、地域志向性を重視した活動を一層進める。

<p>(県民健康科学大学)</p> <p>○豊かな人間性と専門知識・技術に加え、人間としての尊厳を重んじ、様々な側面から保健医療を考え、自立して判断し行動することができる看護師、保健師、診療放射線技師となる人材を育成します。</p>	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染対策をしっかりと行いながら、可能な限り実習や実技指導に重点を置いた教育を行うとともに、国家試験対策についてもグループ及び個別指導により丁寧な支援を行った。 ・質の高い医療サービスを提供できる人材を育成するため、新しいコースを開設するなど大学院教育を充実させた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師、看護師、診療放射線技師のすべての国家試験において合格率100%を達成するなど、多くの医療人材を育成した。 ・博士後期課程修了者を輩出するなど、より高い専門的知識や技術・技能を持つ人材を育成した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化や技術の高度化・専門化に対応できる医療人材を育成するため、新型コロナウイルスの影響下にあっても教育の質を維持することが課題である。

<p>(県民健康科学大学)</p> <p>○大学の研究成果を地域に還元し、県民の保健・医療・福祉環境の更なる向上に貢献します。</p>	
令和2年度の取組実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センター事業として、本学の教育・研究機関である資産を活かした取組を、コロナ禍でできる範囲で継続的に行った。 ・地域医療を担う人材を育成するために、看護師特定行為研修課程に県内病院から5名の受講者を受け入れた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携センター事業として、本学の教育・研究機関である資産を活かした地域貢献活動を、限定的ながら継続的に行うことで、研究成果を地域に還元した。 ・看護師特定行為研修課程で初めての修了者を輩出するなど、地域医療を担う人材の育成に貢献した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究成果等を継続的に地域に還元するため、新型コロナウイルスの影響下にある現状に対応した地域貢献活動に取り組む必要がある。

施策の柱5における指標の状況、令和3年度の方角、基本施策2に対する点検・評価委員会の主な意見

指標の状況

指標		策定時		目標値	2021.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合 や数値に大幅な上下が あった場合等、説明を記 入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
理科室で観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行った小・中学校の割合	小6	91.6%	2017	100.0%	81.3%	2020	-122.6%	新型コロナウイルスの影響による。
	中3	94.5%	2017	100.0%	84.0%	2020	-190.9%	新型コロナウイルスの影響による。
授業中にICTを活用して指導できる公立学校教員※の割合		76.1%	2017	100.0%	＝	＝	＝	文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の調査項目が変更されたため、比較困難。 ※欄外に参考数値を記載。
インターネット利用時に守るべきルールやマナーを身に付けている小・中学生の割合	小	95.4%	2017	100.0%	93.9%	2019	-32.6%	2020年度調査未実施
	中	96.6%	2017	100.0%	96.4%	2019	-5.9%	2020年度調査未実施

(参考)

指標		策定時		目標値	2021.4月末時点の最新値		進捗率	備考 (進捗が芳しくない場合 や数値に大幅な上下が あった場合等、説明を記 入)
項目	細目	数値	年度		数値	年度		
授業中にICTを活用して指導できる公立学校教員※の割合		-	-	100.0%	68.2%	2019	-	(※ICTを活用して指導できる教員：PCや提示装置などを活用して資料や児童生徒の意見などを効果的に提示したり、知識・技能の定着、考えをまとめる活動、レポート・資料・作品等の協働制作などの学習の際に、児童生徒にPCやソフトウェアなどを効果的に活用させたりできる教員)

令和3年度の方角

- ・1人1台端末の有効活用によって学びの枠組みを広げ、生活や社会との接続が図られた学びを推進する。
- ・ICTを活用した日々の授業作りや各学校における研修で活用できるようにするため、「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」の周知・活用を図るとともに、各地域の拠点となるモデル校の実践をもとに改善・充実を図る。
- ・STEAM教育推進プロジェクトにおいて、データサイエンスを切り口にした「ぐんま中高生ミライづくりワークショップ」を実施し、知識の枠を超えた学びを広げ、新しい価値を創造する資質・能力の育成を図る。
- ・すべての高校において、「県立高校等ICT活用モデル～Gunma Model Basic～」をもとに、1人1台パソコンの活用を図るとともに、各教科の活用法をまとめた「県立高校等ICT活用モデル～Gunma Model Advanced～」を策定する。

(県立女子大学)

新型コロナウイルス感染症への対策を徹底しつつ、次のとおり取組を進めたい。

- ・現在、新型コロナウイルス感染予防のため中止している講師派遣、講演会・講座等について、安全安心な運営方法を検討し、再開に向けて準備をしていきたい。
- ・English Help Desk の活用を学生に促し、学生の英語能力向上や資格取得に向けて英語指導の支援体制を構築する。
- ・各国の提携大学や留学エージェント等とも密に連絡をとり、受け入れ体制の進捗状況を把握するとともに、留学が再開された際にスムーズに手続きが行えるよう、留学やビザに必要な書類について準備を整える。
- ・県女版海外危機管理マニュアルを作成し、学生に周知する。

(県民健康科学大学)

- ・コロナ禍においても大学での教育の質を維持するため、感染対策に細心の注意を払いながら、実技科目を中心にできる限り対面授業を行う。
- ・ICTを活用するなど実施方法を工夫して、コロナ禍においてもできる限り、公開講座をはじめとする地域貢献事業を行う。

基本施策2に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」には500以上の指導案が掲載されており、内容も充実している。さらに、「ICT活用Version」も細かな情報が掲載されており、授業を行う教員にとって非常に参考になるものとなっている。
- ・コロナ禍により学校が臨時休業となったにも関わらず、小中学校の授業に大きな遅れが出なかったことは高く評価できる。前例のない事態の中でも、オンラインサポート授業動画を短期間で作成し公開するなど、子どもたちの学びを絶対に止めないという意気込みが強く感じられた。

課題

- ・「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」には紙ベースの指導案が掲載されているが、授業実践例を動画にして掲載すると、より使い勝手が良くなる。「群馬県ICT活用教育サポートサイト」に掲載されているような動画を、さらに増やしていくとよい。
- ・プログラミングに関する能力はこれからの社会に必須とされるため、プログラミング教育について、高等学校で令和4年度から新設される「情報」の授業をはじめ、様々な学習活動の中で積極的に推進していく必要がある。
- ・ICT活用について、現状では教員の活用率を指標としているが、「ICTの活用により、子どもたちに何ができるようになったか」など、教育的効果の測定及び評価も必要である。